

# 八東地区 第5次地域福祉活動計画

(2019年4月～2024年3月)



八東地区社会福祉協議会

はじめに  
～相互扶助(支えあい・助け合い)に基づいた地域一体の活動  
によって安心して暮らせる「福祉のまちづくり」を目指して～

八東地区社会福祉協議会の福祉計画については、第4次(平成26年から平成31年まで)の目標として「誰もが安心して生活できる町・健全な八東っ子が育つまちづくり」を掲げて計画を策定し、地域の皆様、関係機関の皆様のご理解とご支援をいただきながら地域福祉の推進を図ってまいりました。

今回第5次八東地区福祉計画策定に当たり、現在までの事業の成果と課題を把握し、地域の皆様から寄せられたアンケート調査結果を合わせて、策定委員の皆様とともに検討協議を重ねてまいりました。

これまでの事業については、孤立解消支援や健康づくり(健康まつえ21推進隊)をはじめ多くの事業で一定の成果が認められましたが、活動の相乗効果を出す体制づくりや災害弱者の支援について課題が残されました。

また、福祉を取り巻く環境は急速に進む少子高齢化、人口減少、核家族化の進行など人々の生き方や暮らし方などが複雑化しています。その結果、相互扶助機能の低下、社会的孤立、ひきこもり、虐待等福祉課題は多様化困難化しております。

このような厳しい状況の中、設置推進が求められている「地域支えあい協議体」の整備強化が新たな課題となっております。

福祉の今日的様相を認識するとともに、見えてきた課題の活性化に向けた取り組みと福祉ニーズを考慮しつつ「福祉のまちづくり」を実現するため地域の皆様をはじめ、松江市八東支所、八東公民館、自治会連合会、民生児童委員協議会、福祉推進員、高齢者クラブ、青少年健全育成協議会、八東学園、ボランティアグループその他福祉団体の皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりにご意見をいただいた八東学園の児童・生徒、地域の皆様、検討協議いただいた策定委員の皆様に御礼申し上げます。

平成31年3月

八東地区社会福祉協議会  
会長 門脇 賢

## 第5次 八東地区福祉活動計画の概要

### 地域福祉活動計画とは

私たちの暮らす地域の福祉問題や課題を解決するためには、公的なサービスを利用するだけでは解決が難しいことがある。

そこで、住民が主体となり、地域のニーズを共有し、課題解決に向けて話し合い、中心となって日頃から支えあい、助け合う「地域福祉活動」の推進が大変重要となってくる。

第4次計画を基に近年の生活課題や地域の問題などを踏まえ第5次計画を作成した。

### 八東町の概要

八東町は昭和45年八東村より八東町に町名変更した。その後、平成17年3月31日八東郡7町村が旧松江市と合併し、松江市八東町として現在に至る。

面積は6.42K㎡で回りを海に囲まれた島である。高低差はあまりなくなだらかな地形である。

本町は、離島であったが国の干拓事業により、大海崎堤防・馬渡堤防・万原堤防の完成と中浦水門により陸路交通が可能となった。平成17年には江島～境港市渡町間に江島大橋が完成し、米子・境港への交通も便利になり、通院や買い物で利用しやすくなった。

そうした生活環境の変化に併せ消費動向も広域化による地域内の小売店の淘汰が急激に進むとともに、近年核家族化や一人暮らし高齢者(H30 高齢化率 36.45%)の増加など、地域を取り巻く環境が大きく変化している。要介護認定者、要配慮者、障がい者、認知症、生活困窮者などの増加や地域社会の変化に対応した福祉活動の強化が求められる。

### 八東地区各地区別人口の推移(参考)

年 度	人 口			0～14歳人口		65歳以上			1人暮らし		
	H21	H25	H30	H25	H30	H21	H25	H30	H25	H30	
合 計	4,346	4,078	3,957	436	422	1,293	1,328	1,446	336	417	
各 地 区	波入	1,041	1,056	1,007	120	98	315	338	353	103	122
	入江	829	782	718	85	71	260	264	292	73	77
	二子	594	540	486	55	41	195	198	208	46	61
	寺津	194	178	192	14	25	71	64	70	17	21
	亀尻	174	148	162	12	19	55	59	62	10	16
	馬渡	264	248	228	25	28	84	82	82	19	25
	遅江	518	487	501	54	74	160	161	174	38	46
江島	732	639	663	71	66	153	162	200	30	49	

※松江市統計情報データベース参照H30.10月末

## 八束地区内要介護認定者数の推移

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
平成 25 年	28	30	61	51	28	31	29
平成 30 年	49	37	80	52	27	35	21

### 基本理念

少子化・高齢化の進行や社会環境の急激な変化に伴い、生活様式や家族の意識が多様化する中、お互いが支えあう住民主体の「福祉のまちづくり」を目指して各種団体(松江市社会福祉協議会、自治会連合会、公民館、民生児童委員協議会、福祉推進員、高齢者クラブ連合会、青少年健全育成協議会、八束学園、ボランティアグループ)と連携・協力して住みやすい地域づくりを目指す。

### 活動方針

- 1、健康づくりと生きがいをづくりの推進
- 2、福祉ニーズの把握とニーズに沿った福祉学習の推進
- 3、住民参加による地域福祉活動の充実

### 第 5 次地域福祉計画の年度毎の活用

計画の詳細な活動内容については毎年度に地区社会福祉協議会事業計画に反映させ、実行を図る。

また、年度毎に地区社協常任理事会(第 2 層協議体)で検討・協議しその分析結果を次年度に反映させ、各事業の進め方・手法の改善を図る。

## 活動計画策定作業経過について

- 4月16日 地区社協常任理事会  
福祉計画策定について説明 スケジュール・メンバー相談
- 5月18日 地区社協総会  
福祉計画策定について説明  
小委員会メンバー承認
- 6月11日 第1回 小委員会  
第4次 福祉活動計画 評価  
アンケートの実施について 内容検討
- 7月～9月 アンケートの実施  
八束学園4～9年生児童・生徒 PTA  
やつか保育園保護者 地域住民  
回答者 八束学園児童・生徒(4～9年生) 173名  
八束地区住民(20代～90代) 100名
- 9月～10月 アンケート集計作業
- 10月4日 第2回 小委員会  
アンケート集約 重点課題ポイント検討  
第4次計画との照らし合わせ
- 12月20日 第3回 小委員会  
原案作成 到達目標設定
- 1月30日 第4回 小委員会  
全体確認 事業計画へ反映させるための話し合い
- 2月28日 第5回 小委員会  
全体確認 事業計画へ反映させるための話し合い
- 3月 完成 計画承認

## 第5次 八束地区地域福祉活動計画

(2019年4月～2024年3月)

評価●◎ 十分できている ○ 半分程度できている △ 出来ていない

項目		活動内容	到達目標	第4次の評価	H31評価	H32評価	H33評価	H34評価	H35評価
地域のつながりづくり		<ul style="list-style-type: none"> <li>・八束学園、保育園などの地域行事への参加促進、各種団体や八束学園によるあいさつ運動の継続と更なる推進</li> <li>・どげな会や、グラウンドゴルフ等の継続支援</li> <li>・その他地域活動(公民館事業含む)への参加を呼びかける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敬老のつどい、まめだ会等地域住民との交流活動により地域への愛着を深める</li> <li>・どげな会事業の充実強化、参加型事業の展開・広報活動の創意工夫等地域活動への参加者増加(維持)を目指す。</li> <li>・八束学園福祉教育継続支援</li> <li>・わいわいサロン、お寺カフェ、グラウンドゴルフ協会など乳幼児から児童生徒、高齢者までの各活動の支援、促進をはかる。</li> </ul>	○					
見守りネットワーク	要配慮者の把握	年1回福祉推進員と民生児童委員で情報交換会の実施。必要であれば、各地区や行政へ情報を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の特質(絆の強い地域)に基づいて作成した詳細な把握事項の利活用を図る</li> <li>・年1回の情報交換で情報共有・要配慮者支援会議との連携情報共有(引継ぎ)</li> <li>・要配慮者の把握、見守り 見守りにあわせ消費者被害の啓発活動</li> </ul>	○					
	災害弱者(高齢者、障害者、その他等)の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地区防災隊と負傷者の救出、救護、避難場所への誘導などについて協議し、相互協力体制を確立する</li> <li>・要配慮者の支援について研修の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地区、福祉関係者の役割分担並びに相互協力体制の確立</li> <li>・実際の避難者、被災地派遣のボランティアからの知見の学習</li> </ul>						
	買い物・ゴミ出しその他生活支援	現在は近隣や親せき等で対応している方が多い、今後の福祉環境の変化に対応し、的確にニーズを把握し情報提供や支援の対処を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣近所の自主的な支えあいを継続する、頼む人が無く困っている人がいないか定期的にニーズ把握を行う</li> <li>・必要に応じ地域支えあい協議体の助け合いサービスの立ち上げを検討</li> <li>・地域支えあい協議体の推進</li> <li>・各種サービス(配食・買い物等)一覧作成</li> </ul>	○					
	交通弱者対策	コミュニティバスの利用促進、その他移動手段の情報提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスの利便性向上のため、定員オーバーで乗り切れない場合の代替案(タクシー輸送等)の金銭的補助</li> <li>・定期的にニーズ把握を行う</li> <li>・乗車数4人/便</li> <li>・各種団体に対しコミュニティバスを利用するの会議や行事開催の促進</li> </ul>						
	孤立解消支援	ふれあい訪問 どげな会の案内配布 一人暮らしの方へ絵手紙配布 見守り活動(電気点灯、郵便物)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各団体で実施している安否確認の頻度の検討並びにどげな会へ参加されなくなった人のチェック</li> <li>・各事業所の行う見守りサービスの紹介、新聞配達員による見守りの仕組み確立</li> <li>・現活動を継続 ・孤立者を出さない</li> </ul>	◎					

項目		活動内容	到達目標	第4次の評価	H31評価	H32評価	H33評価	H34評価	H35評価
健康づくり	健康診断受診促進	検診前に広報車巡回、児童による有線(おしらせくん)放送を実施	・各種団体の会議に出向き早期発見・早期治療の大切さを伝える。壮年期等若年層への検診の大切さを伝える。検診率50%(現在約40%)	◎					
	認知症	認知症への取り組み	・早期発見、当事者や家族への支援						
	食からの健康づくり	どげな会、まめだ会、健康福祉まつり等で料理教室実施 健康講座やイベント時の試食	・試食を通じて健康になるための食の大切さを伝える ・参加者を2倍に(現在約250人)	◎					
	運動	ウォーキング、グラウンドゴルフ等継続支援、若い世代が楽しめる運動の実施	・健康寿命の大切さを伝える ・スポーツ人口増やす・体育協会との連携・既存活動のPR・親子ウォーキング	◎					
子育て	小さい子どもが安心して遊べる場所	わいわいサロンの継続実施その他イベント等	・現活動を継続 ・新規 フリースペース開催						
ボランティア	ボランティアの確保	過度な負担が無く活動できる仕組み	・広く住民に働きかけボランティアを確保する ・福祉推進員現人数確保・どげな会マニュアル作成 ・保健協力員増員(4名/年間)						

※詳細な活動内容については年度毎に事業計画に記載する

第5次 八東地区地域福祉活動計画

項目	活動内容	到達目標	目標達成のために何をするか	
地域のつながりづくり	<p>○八東学園、保育園などの地域行事への参加促進、各種団体や八東学園によるあいさつ運動の継続と更なる推進</p> <p>○どげな会や、グラウンドゴルフ等の継続支援 その他地域活動(公民館事業含む)への参加を呼びかける</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・敬老のつどい、まめだ会等地域住民との交流活動により地域への愛着を深める</li> <li>・どげな会事業の充実強化、参加型事業の展開・広報活動の創意工夫等地域活動への参加者増加(維持)を目指す。</li> <li>・八東学園福祉教育継続支援</li> <li>・わいわいサロン、お寺カフェ、グラウンドゴルフ協会など乳幼児から児童生徒、高齢者までの各活動の支援、促進をはかる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男性参加者が少ない→男性の興味をひく内容(囲碁・将棋、野菜作りなど?)を取り入れてみたらどうか? 多勢さんの話は参加しやすい・参加者同士誘い合ってもらおうと出やすい・宮練りなど伝統行事の復活を願う声が聞かれる・目的・役割があると出やすい</li> </ul>	
見守りネットワーク	要配慮者の把握	<p>年1回福祉推進員と民生児童委員で情報交換会の実施必要であれば、各地区や行政へ情報を提供する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の特質(絆の強い地域)に基づいて作成した詳細な把握事項の利活用を図る</li> <li>・年1回の情報交換で情報共有・要配慮者支援会議との連携情報共有(引継ぎ)</li> <li>・要配慮者の把握、見守り 見守りにあわせ消費者被害の啓発活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で作成したマップはとても有効である継続して作成する。</li> </ul>
	災害弱者(高齢者、障害がい者、その他等)の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地区防災隊と負傷者の救出、救護、避難場所への誘導などについて協議し、相互協力体制を確立する</li> <li>要配慮者の支援について研修の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地区、福祉関係者の役割分担並びに相互協力体制の確立</li> <li>・実際の避難者の声を聞く、実際の避難者、被災地派遣のボランティアからの知見の学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国電力より原発の話・広島、岡山豪雨災害へ派遣された職員、避難所運営ゲーム・具体的な避難時のシミュレーション</li> </ul>
	買い物・ゴミ出しその他生活支援	<p>現在は近隣や親せき等で対応している方が多い、今後の福祉環境の変化に対応し、的確にニーズを把握し情報提供や支援の対処を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣近所の自主的な支えあいを継続する、頼む人が無く困っている人がいないか定期的にニーズ把握を行う必要なら地域支えあい協議体の助け合いサービスの立ち上げを検討</li> <li>・各種サービス(配食・買い物等)一覧作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者お役立ち情報の八東版を作成市社協の情報へ八東のロコミをのせる</li> </ul>
	交通弱者対策	<p>コミュニティバスの利用促進、その他移動手段の情報提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスの利便性向上のため、定員オーバーで乗り切れない場合の代替え案(タクシー輸送等)の金銭的補助</li> <li>・定期的にニーズ把握を行う</li> <li>・乗車数4人/便</li> <li>・各種団体に対しコミュニティバスを利用するの会議や行事開催の促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験乗車を実施</li> </ul>
	孤立解消支援	<p>ふれあい訪問 どげな会の案内配布 一人暮らしの方へ絵手紙配布 見守り活動(電気点灯、郵便物)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各活動の安否確認の頻度の検討並びにどげな会へ参加されなくなった人のチェック</li> <li>・各事業所を行う見守りサービスの紹介、新聞配達員による見守りの仕組み確立</li> <li>・現活動を継続 ・孤立者を出さない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代も近所の人とのつながりを作っておく必要がある(高齢者になったときに集まれるように)・シニアカーの情報提供</li> </ul>
健康診断受診促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・けんしん前に広報車巡回、児童による有線(おしらせくん)放送を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種団体の会議に出向き早期発見・早期治療の大切さを伝える。壮年期等若年層へのけんしんの大切さを伝える。検診率50%(現在約40%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロコミで周知を行う</li> </ul>	



健康づくり	認知症	・認知症への取り組み	・早期発見、当事者や家族への支援	・認知症になった人を秘密にする家庭が多い、皆で守るという意識づけ
	食からの健康づくり	どげな会、まめだ会、健康福祉まつり等で料理教室実施 健康講座やイベント時の試食	・試食を通じて健康になるための食の大切さを伝える ・参加者を2倍に（現在約250人）	・男の料理教室や親子クッキング等 ・多国籍な視点
	運動	ウォーキング、グラウンドゴルフ等継続支援、若い世代が楽しめる運動の実施	・健康寿命の大切さを伝える ・スポーツ人口増やす・体育協会との連携・既存活動のPR・親子ウォーキング	・新生園へ声掛けし参加募る ・ウォーキング、体力・能力に併せて実施する
子育て	小さい子どもが安心して遊べる場所	わいわいサロンの継続実施その他イベント等	・現活動を継続 ・新規 フリースペース開催	
ボランティア	ボランティアの確保	過度な負担が無く活動できる仕組み	・広く住民に働きかけボランティアを確保する ・福祉推進員現人数確保・どげな会マニュアル作成 ・保健協力員増員(4名/年間)	・推進員の負担軽減

※詳細な活動内容については年度毎に事業計画に記載する